

yomoyomo 2019

図書委員会だより「yomoyomo」第79号 2019年12月 岸産高図書委員会

『アイネクライネナハトムジーク』

伊坂幸太郎／幻冬舎

人とのつながりを感じられる6つのストーリーの短編集。それぞれは独立した話のようでいて、それぞれの話が交わり、人との出会いは偶然だけでなく、人の駆け引きによって起こされることもある。相手が頑張ってくれたから、私はあなたを知ることが出来た。そんな出会いも素敵だと教えてくれました。また、10年の時を越えて繋がる出会いもある。過去と現在と未来において、あんなところでこんな風に繋がる…。「劇的な出会い」「強引な出会い」「運命の出会い」「最高の出会い」色々な出会いが詰まった話です。明日、5年後、10年後、私はどんな人と出会えるのかな、と楽しみにになりました。

家庭科 山下紗代先生

■「yomoyomo」は、各ホームの図書委員が図書館所蔵の本の中からオススメ本をレビュー形式で紹介。今号は二年生が担当しました。先生方からのオススメの一冊も必見です。

『本を読む女』

林真理子／集英社

山梨の裕福な菓子商の家に生まれた主人公「万亀」の少女時代から、三十歳過ぎまで描いた物語です。幼いころから文学少女だった万亀は、将来は何にもならず、一生小説や詩の本を読んで暮らしたいと思っていました。けれど進学や就職、結婚、戦争などにより、厳しい現実と翻弄され続けます。そんな激動の時代を生きながら、いつも前向きに夢を持ちつづけた万亀のそばには大好きな本がありました。「赤い鳥」や「放浪記」、「斜陽」といった本のタイトルによる章立ても、面白く感じました。とても素敵な本なので、皆さんもぜひ手に取って読んでみてください。

11H



『カラフル』

森絵都／河出書房新社

この本は、直木賞作家の森絵都さんの代表作です。死んでしまった主人公の「ぼく」が、自殺を図った中学生の小林真の身体を借りて、自分はなぜ死んだのか、自分の犯した罪は何なのかなどを考えながら、真として家族や友人と生活していくという話です。読み進めていくうちにページをめくる手が止まらなくなり、終わりまで一気に読んでしまいました。読んだ人は、最後に明かされる「ぼく」が死んだ理由と犯した罪にきつと衝撃を受けることでしょう。また私はこの本を読んで、命の大切さも学ぶことが出来ました。ラストを予想しながら読むのも面白いと思います。

9H

『君に恋するなんて、ありえないはずだった』

篠田かつら／宝島社

「あなたにとっての高校生活とは？」部活に勉強、学校行事と思えばいいものは人それぞれ…。その全てをこの作品で見ることができます。普段は交わることのない地味な男子と、派手な女の子が、学校での様々な出来事を通じて恋に落ちるストーリー。読み終わる頃には、誰もが「こんな青春がしたい」と思い、そして「恋をしたい」という気持ちになります。全ての高校生に贈る高校生のための本なので、読者と合わせて2冊一気に読むことをオススメします。

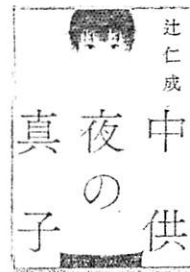
12H

『真夜中の子供』

辻仁成／河出書房新社

来年公開予定の映画「真夜中の子供」の原作本。私は普段から表紙のデザインとあらすじを見て、本を選ぶのだが、この本の表紙に描かれた子供の絵から想像していたよりも、ずっと面白みのある内容だった。作品の舞台は九州の博多。宮台馨は、かつて赴任していた中州警部交番に再び異動を命じられる。そこは「眠らない交番」と呼ばれ、昼夜を問わずありとあらゆるトラブルが舞い込んでくる場所だった。毎晩酔っ払いの相手ばかりする馨が、現場で見かけた青年は、彼が新人の頃、真夜中の路地裏で会った蓮司だった。中州に住む訳ありな人々が、孤独な少年蓮司の心を溶かしていく…。映画を見る前に一読をオススメします。

8H



『2049年「お金」消滅』

～貨幣なき世界の歩き方～

斎藤賢爾／中央公論新社

皆さんは今私たちが当たり前前に使用している紙幣や硬貨が、将来消滅してしまう可能性があることを知っていますか？ 現在、多種多様なキャッシュレス手段が登場していますが、今後もキャッシュレス化が進むと、それに伴って消滅してしまう職業や学問があると知り、大変驚きました。インターネットと社会の関係を研究してきた著者は、この先「貨幣経済が衰退する可能性は高く、その未来にニューエコノミーが立ち上がる」と主張しています。30年後の世界はどうなっているのでしょうか？ 皆さんも想像しながらぜひ読んでみてください。

14H



『動物会議』

エーリヒ・ケストナー／岩波書店

70年前にドイツ人のケストナーによって書かれた大型絵本です。第二次世界大戦が終わり、各国の首脳たちは世界平和を維持するために国際会議を何度も重ねますが、成果は上がりません。それを見て怒った動物たちは、北アフリカの動物会館に集まって会議を開き、人間たちに平和の道を示そうとします。動物たちのスローガンは、「子どもたちのために」です。子どもたちに平和な未来を願っていた作者にとって、作品に登場する動物は自分の分身だったかもしれません。子どもだけでなく、私たちが読んで心に響く一冊です。

10H

『世界はデザインでできている』

秋山興義／筑摩書房

普段何気なく生活していると気づかないのですが、私たちは誰かがデザインしたモノに囲まれて生活しています。もしこの世からそれらが消えてしまったら？ と考えると、その重要性が分かると思います。デザインされたモノには、様々な工夫が凝らされており、生活環境に馴染むように設計されていたり、場の雰囲気を整える効果があったりするなどの良さがあります。広告・看板・衣服やパッケージなど幅広くデザインに関する話が、絵や写真と共にわかりやすく書かれているので、興味のある人やその方面に進学や職業を考えている人に、ぜひ一度読んでもらいたいです。

13H